

①事業実施報告書詳細

学校名 神戸市立真野小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
4時間	真野小学校	事前調査 真野のまちは安心して住めるまちかどうか子供たちの目線で調べる。		普段何気なく暮らしている地域について振り返ることで、地域への見方が変わり、興味をもつことができた。
8時間	真野小学校	第1次調査 真野に住む様々な立場の人から「安心のたね」について聞き取り調査をする。 4つの立場 高齢者・障害者 外国人・親世代		様々な立場の人により感じ方が違うことに気がつくことができた。また、地域のすばらしさに気付くことができた。
8時間	真野小学校	第2次調査 真野の日常の安心を調べる 真野の仕組みを調べる 真野のカタチを調べる 真野の不安と希望を調べる		地域の取組について興味を持つことができた。さらに、自分達にできることはないかと主体的に活動できるようになった。
2時間	真野小学校	まとめ 何が分かったのか、大事なポイントは何かを整理する。 調査結果を子友達の実感をもとにガイドブックとしてまとめた。 真野っ子ガイドツアーを実施した。		自分達が学んだことを自信をもって地域の人や保護者に説明し、地域に愛着をもつ姿が多く見られた。さらに地域の活動に感謝の念をもつ子供が多かった。

②学習指導案

1. 単元名 真野っ子調査隊

2. 目標

- ・真野地域について興味をもち、探究したい課題を見つけることができる。
- ・課題を解決するために、町を探索したり、インタビューしたりし、課題を追究する力を養う。
- ・集めた情報を取捨選択し、必要な情報を集めることができる力を養う。
- ・真野の地域のことを深く知り、地域に愛着をもつことができる。
- ・真野の地域の特色を知り、地域を誇りに思うことができる。

3. 学習計画 (全22時間)

	時間	内容	場所	ねらい
真野はどんな町	1	真野について知っていることは？	教室	今まで真野の町について学習してきたこと、経験してきたことを思い出す。
	2	真野自慢！みんなに伝えよう！	教室	個人の知識を出し合い、真野の町についての知識を共通理解する。
	3	真野の町に詳しい人から話を聞こう。	教室	真野の町について知っておいてほしいことを伝える。
	4	真野の町について知りたいことを決めよう！	教室	真野の町について調べたいことを決める。
真野っ子探検隊出動	1	探検計画をたてよう！	教室	情報収集の方法について考える。
	2 3	真野っ子探検隊～パート1～	校区	自分の課題に応じた情報を集める。
	4	真野っ子作戦会議！ ～探検したことを整理しよう～	教室	集めた情報を整理する。 ※撮った写真を印刷しておく。
	5	真野っ子作戦会議！ ～もっと探検したいこと～	教室	足りない情報を考える。
	6 7	真野っ子探検隊～パート2～	校区	自分の課題に応じた情報を集める。
	8	真野っ子作戦会議！ ～伝えたいことを整理しよう～	教室	集めた情報を整理し、精選する。 ※撮った写真を印刷しておく。
ガイドの計画をたてよう	1	僕たち、私たちは真野っ子調査隊 ガイド計画を立てよう！	教室	ガイドする場所を決める。※対象は？ パンフレットの分担をする。
	2 3	ガイドに使うパンフレット作り1	教室	パンフレットの大枠を作る。 ガイドのルートを決める。
	4	仮パンフレットを使ってガイド練習	校区	仮パンフレットを使ってガイドをし、余分な情報、不足している情報を考える。
	5 6	ガイドに使うパンフレット作り2	教室	パンフレットを完成させる。
	7 8	パンフレットを使って、ガイドをしよう！	校区	本番通りにガイドを行う。
まとめ	1 2	真野っ子ガイド出動！	校区	今まで調べたことを地域の人に伝える。

学習の流れ

<第1回プログラム> 聞かせて！ 真野ってどんなところ？

OSTEP 1：授業の目標や流れを理解しよう！

・進め方：

- ①子どもたちに、今回行う授業の全体の日程や内容が書かれた紙を用いて説明する。
- ②その中身として、授業の目標を「指令」という形で伝える。指令を出すときゼミ生は指令1,2の内容が書かれた紙を子どもたちに1つずつ提示し、黒板に紙を貼る。

指令1：真野のまちは安心して暮らせるまちかどうかを自分たちで調べる

指令2：発見した真野のまちいいところや気になるところについて、ガイドブックをつくって、お父さんやお母さん、町の人に伝えよう＝ガイドツアーをしよう

…という、今回の目標をきちんと伝える。

- ③ (1) 安心ってなに？ (いろいろあるね) ・ (2) 誰にとって？ ・ (3) どうやって？と問いかけてみる。

→調べるときの3つの視点・ポイントを伝える。

…伝える方法として

(1) 登校中に見るあのおじさん、いつも見ていてくれて安心だ。あのお店のおばあちゃんを見ると安心する。

(2) 子どもやお年寄り、大人、だれにとってという視点も大事だね。

(3) この安心してどうやって感じるができるのかな？

など、安心って色々あるんだということを、調査の3か条として「以上のような視点があるんだよ」というように提示する。

→3つの視点を子どもたちが気づいてくれるように、それぞれについてのキーワードを紙などに書いて、提示する。

- ④ここまでの内容を伝えることができたなら、今日行うテーマの内容を子どもたちに提示する。

OSTEP 2：みんなが真野について知っていること、知らないことを教えて！

・進め方：ここからは、班での活動

①「真野について知ってることを聞かせて」ワークショップを行う。

内容：子どもたちに、これまでの学習や経験を思い出してもらいつつ、なるべく具体的に真野について知っていること（経験的に知ったこと、わかったこと）を導き出していく。

*やってきたことを通して、子どもたちがいつ頃に何を学んだか、どういうことに気づいたか、教えてもらう。

*行った学習や活動（ボランティアなど）を通して、どんなことに気づくことができたか、子どもたちに質問を投げかける。

・知っている真野のおっちゃん・おばちゃん紹介（どこの誰、どうやって知った、など）

②次に真野の知らないこと聞かせてと質問を投げかける。

…自分たちが知らない真野＝聞いたことあるけどわからない、とかを出してもらう

*②の意見を子どもたちから引き出す方法として…

班に、青と赤のポストイットの束を配布し、真野について知っていることは青色のポストイットを使って書いてもらい、知らないこと、聞いたことはあるがわからないことについては、赤色のポストイットを使って書いてもらい、何が知っていることで、何が知らないことなのかを見て分かるようにしておく。

*ゼミ生は、あらかじめ以下のキーワードを用意しておく。

震災の時、暴迫、給食サービス、要援護者支援や防災訓練（津波対策）など。出なかつたら、④でちょっとだけ示唆しておく）

④今日、みんなが話してくれた知っていること、知らないことの整理を行う。

・真野の知らないこと→簡単にレクチャー（示唆程度）を行い、みんなが語らなかったこと（真野の安心の種）を示唆的（乾・藤森）

⑤このときとっても大切なことがある。一番最初に言った「誰にとって」ということ。

→真野のまちにはいろいろな人が住んでおり、ある人にとっては真野は安心して暮らせる住みやすいまちかもしれないけど、ほかの人にとっては違うかもしれない。人によって安心できるポイントも違うはず。

→どんな立場の人がいるかな？…<高齢の人>・<障害を持つ人>・<外国の人>・<お父さんやお母さんくらいの若い世代>そして<子ども>（*STEP 1 の②で説明しておく）

→班ごとに分担を決める

…「じゃあ次回から、それぞれの立場で真野の安心を調べよう！」ということを伝えておく。

*4つの視点が出なかった場合、藤森先生や乾先生に導いてもらう。

OSTEP3：真野は子どもにとって安心して暮らせるまちか

・進め方：

①第3回プログラムでまちの人に聞き取り調査をする予行練習として、まずは子どもたちになって真野の安心を3カ条を元に考えてもらう。

②子どもたちに班ごとにフィールドワークをしてもらう。

→どの班にどの区域を調査してもらうかは、事前に藤森先生と相談して決める。

→班に1枚ずつ真野マップを持たせる。

真野のまち歩きのような形で自分たちにとって「この場所の何が安心なのか、ここをみつけたことで安心、不安なものが見つかるのではないか、この場所のこういうところを知っている！」といった調査を行ってもらう。また、子どもの目線として重要だと考えるところには、地図にマークをしたりメモをとるなど次回につなげられるようにする。

メモの書き方としては、子どもたちが気づいたこと、気になったことなどを書いてもらい基本的に自由にメモを取ってもらう。

③まち歩きして、班ごとにわかったこと、気づいたことを整理する。

→まち歩きで見てきたことの報告。

④次回（第2回プログラム：4つ人たちの立場に立って調べる）の内容の説明を行う。

<次回に向けての準備作業>

- ・チェックリスト作成
- ・聞き取りワークショップ用マップ作成
- ・聞き取り対象者依頼…一番大変。早くから選定と依頼を開始
- ・インタビュー対象者に事前にアポをとっておく。

<第2回プログラム> 「真野って安心なまちなのか、まちの人に聞いてみよう！」

○STEP 4：前回の学習内容のおさらいをしよう

・進め方

- ①子どもたちが班ごとに座っていることを確認し、挨拶をする。
- ②前回の内容のおさらいを行う。
⇒おさらい内容
前は「みんなが知っている真野」についての授業だったことをおさらいする。
⇒おさらいする時に、キーワードが書かれた紙を黒板に貼って、子どもたちに思い出してもらいやすくする。
⇒おさらいをするときに、子ども達が興味があったこと（場所や、人など）が、今日行うことの重要なポイントになるということを伝える。
⇒前回、子どもたちが実際にまちを歩いて実感したことや分かったことの中で、子どもにとっては安心であると感じても、まちに住んでいるこの4つの人たちにとってはどうかかな？ということも調査の重要なポイントとして伝える。
- ③今回行う内容（聞き取り調査を行う）を伝える。
⇒伝える内容
大人、お年寄り、障害者、外国人の4つの立場の人に班ごとに話を聞き、真野のまちは安心して暮らせるまちかどうかを調査してもらおうということを伝える。
- ④聞き取り調査の作戦会議
⇒5分程度で、班でちょっとした話し合いを行う

○STEP 5：聞き取り調査をしよう

・進め方

- ①班ごとにワークショップ用地図を取り囲み、聞き取り調査を行う。
⇒対象者（高齢者・外国人・障害者・親世代）の人、少なくとも4人以上来てもらい、半分ずつに分かれて子どもたちに聞き取り調査をやってもらおう。（1つの班に子どもが6人いるとしたら、子どもを班の中で半分にして、対象者も2人ずつに分け質問させる）
⇒ワークショップ用地図は各班2枚ずつ合計8枚使用し、地図に調査する人の家を最初にマークしてもらおう。場所や人が関わる話は、なるべく具体的に（どこの場所？どこの誰？なぜそこなの？）聞く。
⇒時間を計って、調査する人の交代をして、また聞き取りを開始する。

- ※①この時子どもたちの中でもやらない人もいるので1人2つ以上質問するといった指令を出す
- ②調査の開催場所は、参加者の都合で考える
 - ③聞き取り調査の際は、地図に余白を用意しておき、聞いたこと、聞いて考えたことなどをメモして残しておくように指導する。
 - ④調査対象者にお礼を言って、聞き取り調査を終了し教室に戻る。

○STEP 6：聞き取ったことの振り返りをしよう！！

・進め方

- ① 調査で分かったことを班ごとにまとめる。
まちの人と実際に話した感想や、調査をして、「真野のなになにに、どういうところに安心を感じたか」をゼミ生が作成した2枚のワークシートにSTEP5で使用した地図を参考にしながら記入する。
⇒ワークシートの内容＝真野のすごいところ or 真野のここが気になる・なんで？どんな安心？・誰にとって？対象者以外は？・誰がやっているの？・地図番号を事前に表にした模造紙をワークシートとして作っておき、ポストイットとマーカーを用いて整理できるようにする。
（まとめは子どもたちに自由にさせる）
- ②まとめたことの発表を行う。
⇒班ごとに、クラス全体に調査を通して発見した内容とそれに伴う気づいたポイント、ワーク

シートを使ってまとめたことを発表させる。(発表の仕方は、STEP4 の地図・ワークシートを用いて、子どもたちに自由にさせる)

⇒1 つの班が発表を終えるごとに、質問タイムを設け、そこから新しい視点や疑問を見つけ出す。

② 全班の発表が終わったら、発表内容をみんなで共有する

○STEP 7 : みんなが聞いた話をもとに、〈真野の安心のモト〉を発見しよう！

・進め方

①全班の発見を共有したら、みんなで「これが真野の安心のモト」「もっと調べたいこと」の内容を考えてもらう(選び出す)。

⇒選び出す際に、なぜそれを選んだのかも大事であるので考えさせる。

選び出す方法として、ポストイットを用い子ども達に興味がある、調べたいことを記入してもらい、またその理由をそこに記入してもらう。それを黒板に貼ってあるワークシート*1に貼ってもらい意見を集める。

②今日聞き取り調査を行い、そして今日みんなが発表してくれたポイントについて次回からはもっと深く掘り下げて、具体的に真野の安心について調査していくことを伝え、またこれを行うことで「真野ガイド認定証」に近づけるよ！ということを示唆して、子どもたちのやる気を上げる。

⇒次回からは、みんなが知りたい、わからない、おもしろいと思ったことを調べる(第二次調査)ということ伝える

③班ごとに話し合いを行う

⇒第1次調査での立場は忘れて、ここまで行ったことを踏まえて面白い、なぜ、問題点など思ったことを出し合う。

※子どもたちの中から、もっとここが知りたいという主体的なテーマが出てくるようにする。

→ここは時間があれば。

*1 黒板に貼るワークシートは、①真野のここがすごい②何で？どんな？③誰にとって？④誰がやってるの？を4つの項目に分け、班ごとに貼ってもらう。

○STEP 8 : 各班発表を行い、全体で第二次調査で調べたいことを選び出す

・進め方

①班ごとの発表を、1枚の大きな地図や模造紙にゼミ生が書き留めていく

②みんなの発表をまとめて、第二次調査のテーマ(場所、人、事柄)を選び出す

⇒出たテーマを4つに分類し、班ごとに分担する

<第3回プログラム>

「真野の安心のタネをまとめて、もっと調べたいことを見つけよう！」

※子どもたちが聞き取り調査で聞いた話を整理して、地図を作っていることが前提。そのために、ゼミ生が学校へ行き、各班の整理の状況を確認し、できていないようなら整理するように促す。さらに4班（親世代班）は宿題として自分の親に聞き取り調査をする。また障害者班は、北坂さんの聞き取り調査も追加で整理する。

前回の学習内容をおさらいしよう

・進め方

①子どもたちが班ごとに座っていることを確認し、挨拶をする。

②今回行う内容を簡単に（まとめ・二次調査）を伝える。

⇒伝える内容

I. これから、真野の安心のタネをみんなに探してもらおうということ。

II. 前回4つの立場（高齢者・外国人・障がい者・親世代）から聞いた話をまとめて、真野のすごいところ・気になるところを見つけよう。

③前回の内容のおさらいを行う。

⇒おさらい内容

前は「高齢者、外国人、障がい者、親世代の4つの立場の人に班ごとに話を聞き、真野のまちは安心して暮らせるまちかどうかを調査する」という授業だったことをおさらいする。

⇒前回、子どもたちが実際に4つの立場の人に聞き取り調査をしてまとめたことをおさらいする。

④今回行う内容を詳しく伝える。

⇒伝える内容

前回行ったことをまとめた上で、真野の安心のタネを見つけるんだよ！

その安心のタネを、これからはもっと深く調査していく。全部は調査できないから、今回はこれまで聞き取り調査をして出てきた中から、どれを調べていくのか選ぶんだよ！

○STEP 9：聞き取り調査をまとめよう！！

③ 調査で分かったことを班ごとにまとめる。

まちの人と実際に話した感想や、調査をして、「真野のなにに、どういうところに安心を感じたか」をゼミ生が作成した2枚のワークシートに記入する。

⇒ワークシートの内容＝真野のすごいところ or 真野のここが気になる・なんで？どんな安心？・誰にとって？聞き取った人以外は？・誰がやっているの？・地図番号を事前に表にした模造紙をワークシートとして作っておき、ポストイットとマーカーを用いて整理できるようにする。

④ まとめたことの発表を行う。

⇒①でまとめたことを、班ごとに、1班5分程度でクラス全体に発表してもらおう。このとき、調査を通して発見した内容と気づいたポイントを発表してもらおう。（発表の仕方は、聞き取り調査をまとめた地図・ワークシートを用いて、子どもたちに自由にさせる）

⇒1つの班が発表を終えるごとに、そこから新しい視点や疑問を見つけ出す。

ここで班ごとにすごい！と思ったことや、共通点、気づいたところの意見を出してもらおう。

ゼミ生も各班に感想を伝える。

⑤ 全班的発表が終わったら、発表内容をおさらいする。

○STEP 10：みんなが聞いた話をもとに、<真野の安心のタネ>を発見しよう！

・進め方

①全班的発見を共有したら、個人個人で「これが真野の安心のタネ」「もっと調べたいこと」の内容を考えて（選び出して）もらおう。

⇒選び出す際に、なぜそれを選んだのかも大事であるので考えさせる。

選び出す方法として、大きなポストイットを用い子ども達に①名前②興味があることや、調べたいこと③その理由を記入してもらおう。それを黒板に貼ってある模造紙貼ってもらい、意

見を集める。

⇒聞き取り調査や発表を通じ子どもたちが真野についてもっと調べたいことを見つけてもらう。

この時「真野のこんなところがスゴイ！」「今回の調査では不十分だからもっと調べたい！」

「実際にその場所へ行って話を聞いてみたい！」「真野のこんなところが気になる…」などキーワードを提示し、子どもたち一人一人に興味を持ったことを見つけてもらう。

※子どもたちの中から、もっとここが知りたいという主体的なテーマが出てくるようにする。

※もっと調べたいことはひとつだけではなく、ひとり最低3つ以上考えてもらう

②子どもたちの調べたいことをまとめる。

⇒聞き取り調査の立場を忘れ、個人個人で出た意見を子どもたちの興味ごとにまとめ、4つから5つの分類に分けて班を作る。

③次回からの予定を伝える。

⇒聞き取り調査を行い、そして今日みんなが選んでくれた「これが真野の安心のタネ」「もっと調べたいこと」について次回からはもっと深く掘り下げて、具体的に真野の安心について調査していくことを伝える。またこれを行うことで「真野ガイド認定証」に近づけることを示唆して、子どもたちのやる気を上げる。

⇒次回からは、今日みんなが考えてくれた、「真野のこんなところがスゴイ！」「今回の調査では不十分だからもっと調べたい！」「実際にその場所へ行って話を聞いてみたい！」「真野のこんなところが気になる…」などのことを調べる（第二次調査）ことを伝える。

準備するもの

前回のまとめ（ポストイット、地図）

聞き取り調査をまとめるワークシート 2枚×4班=8枚

大きめの模造紙 1枚

大きめのポストイット

プロッキー

<第4回プログラム>

「真野っこガイドで紹介したいことを考えよう！！」

前回の学習内容をおさらいしよう

進め方

①子どもたちが班ごとに座っていることを確認し、挨拶をする。

②今回行う内容を伝える。

⇒伝える内容

I. みんなが今まで調べたことや知っていることの中から、真野っこガイドに向けて、みんなが伝えたいこと（真野の場所・人・出来事・イベント・施設など）を考えよう。

II. 今までの調査だけでガイドするのは不十分だから、もっと調べないといけないこと（第二次調査）を考えよう。

③前回の内容のおさらいを行う。

⇒おさらい内容

前回は高齢者、外国人、障がい者、親世代の4つの立場の人に聞いたことをまとめて、その上でもっと調べたいことを選ぶ授業であったことをおさらいする。

○STEP 1 1：真野っこガイドで紹介したいことを考えよう！

進め方

①子どもたちにガイドで紹介したいことを考えてもらう。

⇒今までの調査でまとめた資料や子どもたち自身が知っていることの中で、どんなことを伝えたいのか一人一人考えてもらう。このときなぜそれを伝えたいのか、理由も考えてもらう。

※教室に掲示してある、今までの調査をまとめたワークシートや地図などを参考にして考えてもらう。

②ガイドで紹介したいことを発表する。

⇒一人一人が考えたことを発表してもらう。

※ゼミ生が聞いたことをポストイットと地図に書き出していく。

③子どもたちがガイドしたいことをまとめる。

⇒子どもたちが考えたガイドで紹介したいことだけでは、情報量が少ないことを伝える。だからこそ、ガイドをいいものにするためには、これからもっと調べることが必要である（第二次調査が必要）ということ伝える。

○STEP 1 2：真野っこガイドのために調べたいことを考えよう！

進め方

① 乾先生から真野レクチャーをしてもらう。

⇒給食サービスなど、今までの調査では出てこなかった重要なことに子どもたちが興味を持てるように乾先生からレクチャーしてもらう。

②前回子どもたちが選んだ虫めがね（第二次調査で調べたいこと）をまとめたリストを渡す。

⇒このとき、前回子どもたちが考えた虫めがねの中で必要なことをピックアップする。また、前回虫めがねでは上がらなかったが、大切そうなこともピックアップする。

③乾先生のリスト、虫めがねリストの中から第二次調査のテーマを選んでもらう。

⇒このとき第一希望から第三希望までを選んでもらう。

STEP 1 3：ガイドに向けて調査をしよう！

①班毎の大きなテーマを、これから2回に分けて行うインタビューやまちあるきを通して調べていくということを伝える。

②調査が2回行われるということもあり、子どもが担当していない人にも調査をするときがあ

るが、それは関係がないのではなく班それぞれのテーマをもとにガイドを行うので、**班全員でしっかり取り組むようにメモを取って置くように指示する。**

③調査を行うときに使う質問表を班毎に配る。質問表には、それぞれ担当する項目について調べるときにどういう質問をすればよいか書かれており、子どもが調査をするときに話がそれないように、またゼミ生も質問のイメージを持って子どもに指示できるようにする。

④質問表には、自分が考えた質問を記入する項目をあらかじめ作っておき、インタビューを行うとき自分でなにか気になること、ガイドの材料になるものはないかを探すように伝えておく。

⑤ゼミ生が用意した、「**調査ノート**」を配布し、ガイドの材料となる調査でわかったことや気づいたことを記入するように指示する。

○STEP 1 4 : 班に分けてまちに出よう！

<第5回プログラム> 「質問をもっと深めてガイドブック作成を始めよう！」

○STEP 1 5 : 前回の復習をしよう！

ワークショップの説明をゼミ生が行う
模造紙とポストイットとプロッキーを各班に配る

1. 前回の調査の共有と復習。

ガイドで学んだことをテーマに、前回の調査の復習と共有を班ごとにワークショップ形式で行う。

- ①子どもたちに調査した内容をポストイットに記入してもらう
- ②書いたポストイットを一人ずつ読み上げながらはり出してもらう。
他の子どもも似た内容のポストイットがあれば一緒にはり出してもらう。

2. 一班から順番にワークショップの結果を発表する。

○STEP 1 6 : ガイドブックに載せたいものを選んで、作り始めよう

できるだけ子どもたちの意見を反映させるが、ガイドに入れた方がいいものがあればゼミ生がアドバイスする。

選び終わった班から、ガイドブック作成を始める。

*ガイドブックのイメージ
各班に A3 の厚紙用紙を配る
必須項目・タイトル

- ・班のメンバー
- ・地図を貼る
- ・紹介したいこと

基本的に、ガイドブックの書き方は子どもたちに任せる。

○STEP 1 7 : ガイドのイメージをしよう@教室

・ガイドブックに沿ったガイドをするということを伝える。

・班ごとにルートと説明する場所が書かれた地図をゼミ生から提案し、他に案内したい場所はないか子ども達に確認する。ルートの変更があった場合は、修正版の地図を当日(1.17)に渡す。

※紹介したい場所をとおりながらまちを歩いた後、各班に一箇所だけガイド時に集まれるような広い場所を確保しておく。そこでガイドで紹介したいところの詳細を話すイメージ。

・ガイド中の台詞を考える

※ガイドブックを元に話したい内容を一人ひとり本番を想定して考える

※考えた内容はそれぞれの調査ノートに記す

STEP : ガイドのリハーサルをしよう！ @まち

・実際に外に出て班ごとにルートを歩く

※事前にゼミ生がルートを確認しておき、安全な道かどうかなどを把握

※リハーサルで気づいたことなどがあれば調査ノートにメモする

※大きな声・安全な道・人が集まって話しを聞ける場所かどうかを確認しながらリハを進める

STEP : ガイドの復習・反省をしよう！@教室

・どのように歩いたか、何に注意して何を話したかをゼミ生を中心に復習する。

＜第6回プログラム＞ 「真野っ子調査隊！出動！」

○STEP 18：手順の確認をする。

1. 自分の担当場所ごとに集まる。
 - ・ガイドブックを地域の人に配る。
 - ・簡単な道順について説明する。
2. 各班ごとに出発する。
 - ・各班に学生と教員を配置する。
 - ・歩いているときに間があかないよう、言葉をかける。
3. 学校へ戻り、真野ガイド認定式を行う。